

式 辞

震災を乗り越えた桜の樹々に花が咲き誇る本日、ご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席を賜り、「令和7年度入学式」を挙行できますことに心より感謝いたします。

ただ今、入学を許可いたしました新入生の皆さん、入学おめでとうございます。また、今日までお子様を育ててこられた保護者の皆様に心よりお祝い申し上げます。そして、七尾高校に期待し、本校を選んでくださったことに心より御礼申し上げます。

先程、校歌を披露した合唱隊は部活動の有志によって編成され、新入生の皆さんを明るく元気な姿で歓迎したいとユニフォーム姿で歌いました。先輩たちは皆さんと一緒に活動できることをとても楽しみにしています。

皆さんが入学したこの七尾高校は、明治32年（1899年）に石川県第三尋常中学校として創立され、本年は創立127年目にあたります。先輩諸氏は、創立以来、「至誠・剛健・敢為」という校訓、即ち「誠実であること・心身ともにタフであること・果敢に挑戦すること」を旨として多感な青春時代を勉学、スポーツや芸術活動等に励み、七高精神を築き上げてきました。

新入生の皆さん、このような七尾高校で学習・部活動・学校行事等に思いっきり取り組み、大いに自分の可能性を試してください。自ら考え、価値観の異なる他者と議論し、正解のない課題に向き合ってください。その過程でうまくいかず悩むことも多々あると思いますが、実はそれがチャンスです。自分には何が不足しているのか、じっくりと自分自身に問うことで、本当の自分、より自分に適した道が見えてきます。挫折・失敗は「次こそ！」という強い意志と工夫・改善を生み出します。そのようにして過ごす3年間で培われる力は様々な場面で活用でき、皆さんの人生の原動力となります。

保護者の皆様、これから始まるお子様の3年間は、人生の方向を模索する最も大切な時期であり最も大きく成長するときです。私たち教職員は、皆様方の大切なお子様をお預かりし、全力で支援・指導いたします。お子様の心豊かで健全な成長のためには、ご家庭と学校が手を携えて協力することが重要と考えます。どうか、本校の教育活動についてご理解をいただき、ご支援とご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

最後になりますが、直木賞作家伊与原新さんの作品で、昨年、青少年全国読書感想文コンクールの課題図書に指定され、テレビドラマ化もされた『宙わたる教室』から学んだ次の言葉を、新入生の皆さんに贈ります。大きな挫折を経験し、定時制高校に通う主人公が科学部を結成し、紆余曲折を経ながらも諦めず、多様な仲間たちと力を合わせて、火星のクレーター再現に成功し、目標としていた学会発表だけでなく入賞まで果たします。その時、どうしようもない不良品と自分のことを言っていた主人公が心から語った言葉を七尾高校に当てはめたものです。「七尾高校には何だってある。その気になりさえすれば何だってできる」。繰り返します。「七尾高校には何だってある。その気になりさえすれば何だってできる」。

ぜひその気になるものを見つけてください。それにマジで真剣に挑んでください。新入生の皆さんの高校3年間で、充実したものとなることを願い、式辞といたします。

令和7年4月8日
石川県立七尾高等学校
校 長 樋上 哲也